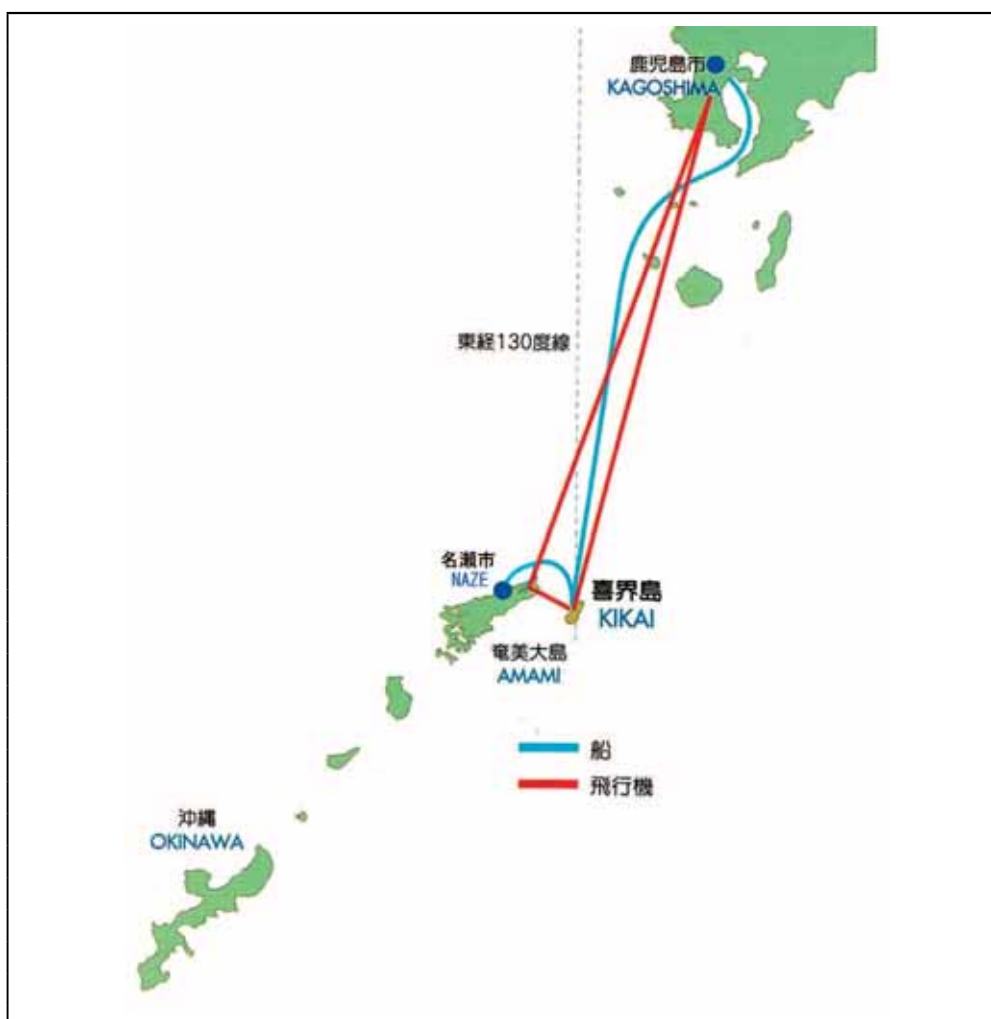


## 1. 位置・町勢

喜界島は、東京の南西方向におおよそ1,400km隔たり、県都鹿児島市からは南南西に380km、奄美大島の東方22kmの洋上にあります。島の面積が56.9km<sup>2</sup>、周囲48.6kmの隆起珊瑚礁でできた小島です。

喜界島はかつて旧早町村と旧喜界町の行政区が敷かれていましたが、昭和31年の町村合併により一島一町の喜界町が誕生しました。現在、町の人口は約9,000人で、島内の段丘崖下や海岸沿いに湧水池が見られ、それを囲むように集落が形成されています。

島の産業は、農業を主軸に展開されており、なかでも基幹作物のサトウキビは製糖業・糖品加工業を支えるなど島の経済の大きな柱になっています。



位置図

## 2. 気象

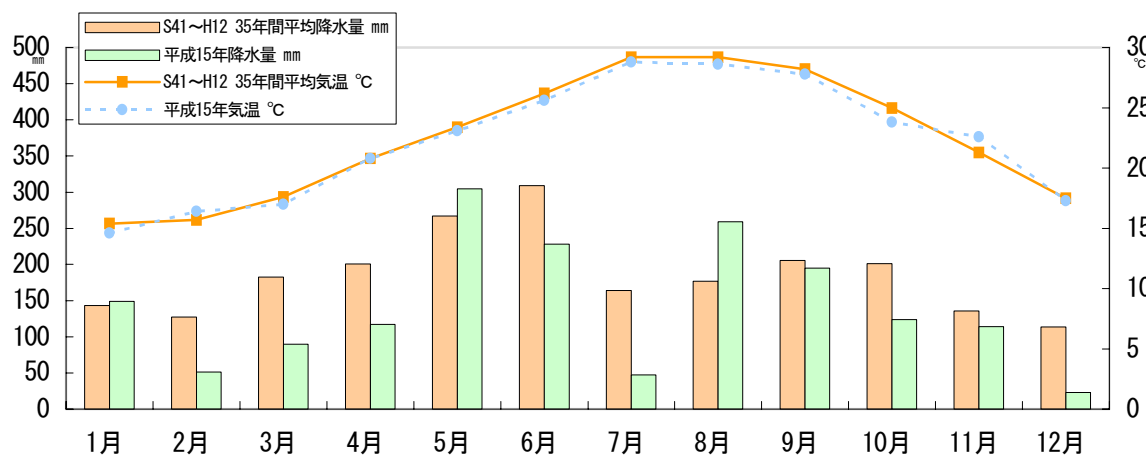
気候は、亜熱帯海洋性で温暖。平均気温が、4月～10月期で26.0℃、11月～3月期で17.5℃。降水量は、年間平均で約2,200mmですが、その大半が梅雨・台風期に集中する傾向にあります。農作物に影響を与える干天日数は、梅雨明けの6～7月頃に発生し30日以上連続した記録があります。最近の記録では、昭和56年の39日が顕著であり、サトウキビの収穫が大幅に落ち込みました。この地方では、冬期に入ると曇天の日が続き、強い季節風に見舞われるなど特徴的な気象を呈します。

### ●台風接近・通過回数

月	年	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
名瀬市から五百キロメートル以内	1																						0	
	2																							0
	3																							0
	4																							0
	5						1						1						1			1		3
	6		2				1		1	2				1					2					9
	7		1	1		1	1	1	2		1		1		2	2	1	1	1		1	1	1	16
	8		1	1	1	1	6	2	1	1	2	1	4	3	2	1		1	2		3	1		30
	9	1		1	1					1	2	2	3		1	1	1	1	1	3	3	2		19
	10	1	2		1		2		1	2	2	1	1		1			1	1	1		1		17
	11	1										1		1				1				1		4
	12																							0
	計		3	6	3	3	2	11	3	5	6	7	5	10	5	6	4	2	5	8	4	8	6	98
300km以内		3	1	3	0	2	5	2	3	5	4	4	7	3	6	2	2	3	2	3	6	3	69	
発生個数		24	29	25	23	27	27	29	23	31	32	29	29	31	28	36	23	26	28	16	22	23	561	

資料：奄美群島の概況

### ●月別平均気温と平均降水量



### ●喜界島の気象

[昭和41年～平成12年 35年間平均]

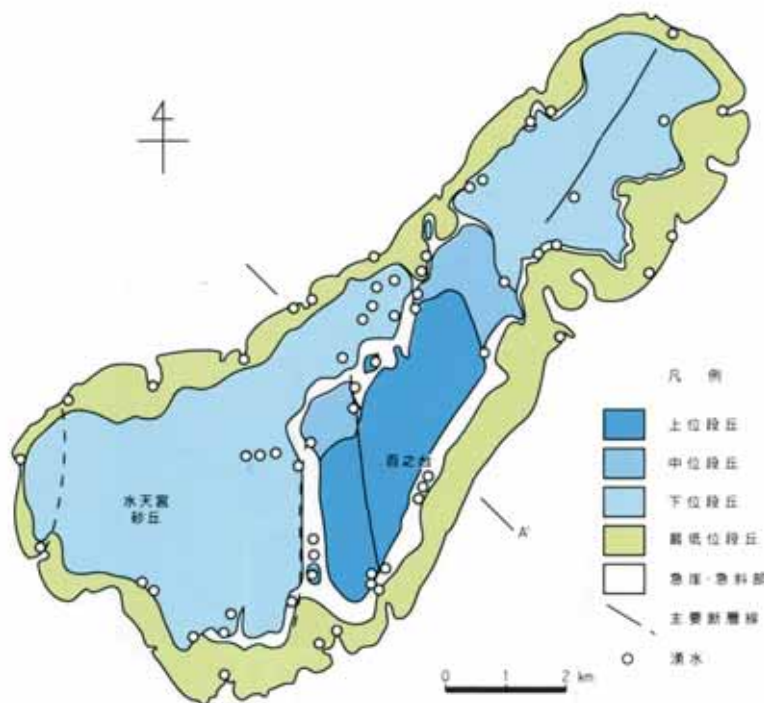
項目	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計・平均
最高気温	°C	17.8	18.0	20.1	23.0	25.6	28.3	31.6	31.8	30.7	27.5	23.6	20.0	24.8
最低気温	°C	12.0	12.1	13.7	16.5	19.3	22.7	25.2	25.3	23.8	20.9	17.4	13.7	18.6
平均気温	°C	15.4	15.7	17.6	20.8	23.4	26.2	29.2	29.2	28.2	25.0	21.3	17.5	22.5
降水量	mm	143.2	127.3	182.6	200.4	266.8	309.4	164.1	177.1	205.6	201.1	135.6	113.7	2226.9
日照時間	h	76.2	76.3	92.9	121.2	135.2	142.6	234.3	218.7	186.0	142.8	106.1	86.7	1619.0

資料：生和糖業(株)

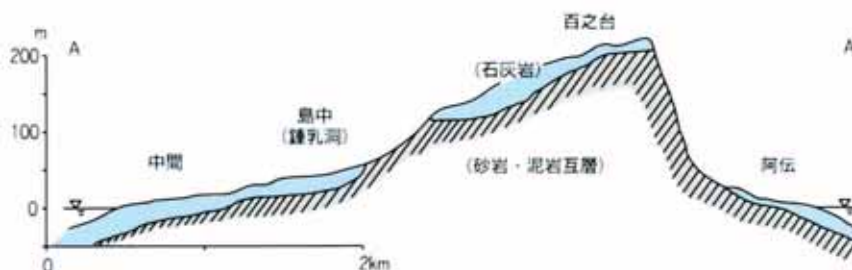
### 3. 地勢・地質

島には、山らしい山はなく、奄美十景に数えられる島の名勝地百之台（標高 203m）を最高位にして、以下高さを異にする数段の段丘を成しており、概して起伏の少ない平坦な地形です。

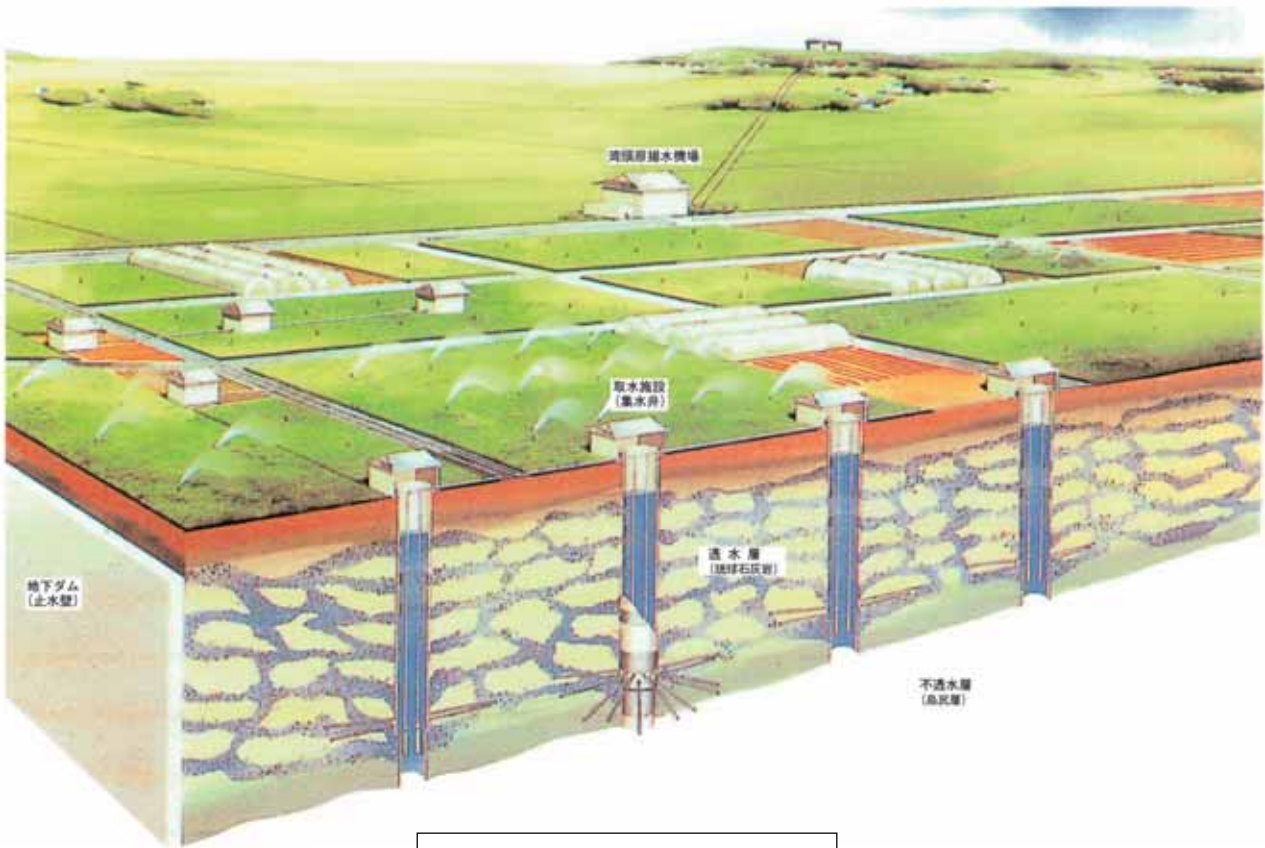
島の地層は、下層に島尻層群と呼ばれる不透水性の泥岩、砂岩の互層が島全体の基盤を形成し、その上層を厚さ 20～40mの琉球石灰岩が覆っています。琉球石灰岩は、多孔質で透水性が良く、地下水の良好な帯水層としての役割をもっており、水を貯える格好の器となっています。このような地質構造のため、降水は、速やかに地下浸透し、時を経て島内の段丘崖下や海岸沿いの汀線に湧水となって流出しています。当事業による地下ダムは、地下を流動する水を地中に壁体を造って堰き上げ石灰岩層を器に帯水させる新しい水源開発技術です。



段丘区分と湧水分布



地形・断面図



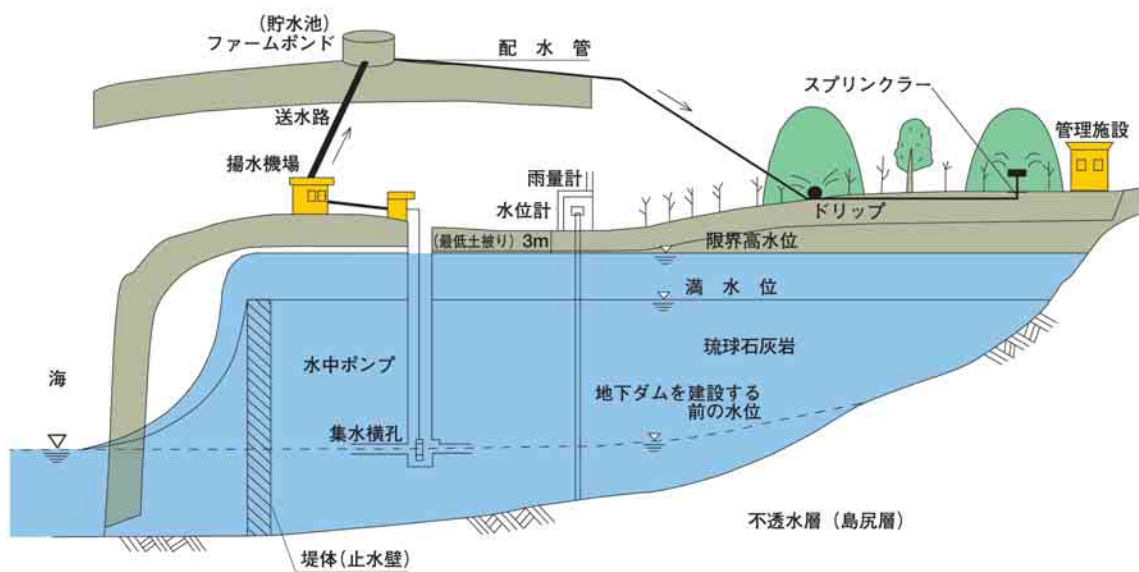
地下ダムによる水源開発イメージ

#### 4) 用水計画

##### (1) かんがい方式

かんがい方式は、サトウキビはスプリンクラーかんがいで、野菜類は点滴かんがいで計画しています。

かんがい期間は、サトウキビが6月～10月まで、野菜類が通年かんがいです。



畑地かんがい概念図